

はじめに

平成 29 年 3 月には、奄美群島国立公園が 34 番目の国立公園として設置されました。そして平成 30 年度には奄美群島が沖縄の諸地域と共に世界自然遺産に認定されることが期待されています。かつては注目されることが少なかった奄美群島の生物の多様性が世界的に認知されつつありますが、鹿児島大学でも数年前から県内の奄美群島を含む薩南諸島において、生物の多様性を研究し教育に生かす努力を重ねてきました。そして平成 27 年度には文部科学省による特別経費を得ることができ、「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育拠点形成」を実施しました。それにより平成 27 年 4 月から奄美市提供の建物に教員が常駐する国際島嶼教育研究センター奄美分室を設け、奄美群島地域での研究・教育の活性化を図ってきました。平成 27 年度が国立大学法人の中期計画第 2 期 6 年間の最終年度であったために、同プロジェクトは単年度で終了となりましたが、第 3 期が始まった平成 28 年度から 4 年計画の「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育拠点整備」として、再出発しております。平成 27 年度の成果概要は、南太平洋海域調査研究報告 No.57 として同年度末に公表しました。平成 28 年度からの 4 年計画のプロジェクトに関しましては、毎年成果発表会等を行いますが、報告書としては 2 年ごとにまとめることとしました。平成 29 年度が 2 年目となりますので、今回は 2 年間の成果を本報告書として上梓することとなりました。

本プロジェクトでは国際島嶼研究センターと同奄美分室がその中心的役割を担っていますが、それ以外にも鹿児島大学の約 40 名の研究者が関係しております。そのように多人数のために、陸上植物、陸上動物、水圏、人文、基礎の 5 つの班に分けて活動を進めています。それぞれの班の研究成果については、本文をご覧ください。こととして班全体としての活動としては、出版、シンポジウム、観察会等があります。

出版活動は一般向けの書籍を年に 1 冊出版することにしていきます。平成 27 年度に特別経費のプロジェクトを始めるためにはそれまでに研究教育の蓄積が必要であり、それらをまとめて「奄美群島の生物多様性-研究最前線からの報告」(南方新社, 389pp) を同年度末に出版しました。平成 28 年度からは実質的に本プロジェクトの成果を基にした出版が始まりましたが、昨年度は陸上動物班が中心となり、「奄美群島の外来生物 生態系・健康・農林水産業への脅威」(南方新社, 245pp) を出版しました。平成 29 年度も植物班が中心となって同じ出版社から約 250 頁の「奄美群島の野生植物と栽培植物」を年度末に出版するための最終段階に入っています。次年度以降も水圏、人文班が出版の計画を立てています。

シンポジウムも年に1度奄美群島で行うこととして、昨年度は動物班が中心となり「薩南諸島の外来種」について、平成29年3月4日に奄美大島で開催しました。今年度も3月3日に植物班が、「奄美の植物と世界自然遺産」というシンポジウムを行うこととしています。来年度以降も同様にシンポジウムを行うことになるでしょう。また平成29年6月には本プロジェクトのメンバーが実行委員会となって、日本熱帯生態学会を奄美市で開催し120名の参加がありました。学会最後のシンポジウムは一般にも公開され、地域の方にも数多く参加していただきました。

自然観察会は、陸上植物と水界生物が毎年各1回または2回行い、いずれも40名前後の方に参加して頂きました。さらに、奄美分室では小さなセミナーや、地元の学校での出前講義などを毎年何回も開催しております。

最後に、本事業を行うにあたりご協力いただいた地域の住民の皆様、そして奄美市や奄美群島広域事務組合を中心とした薩南諸島における行政機関の皆様に感謝を申し上げます。

平成30年2月5日
プロジェクト代表
鈴木英治
河合 溪